

1. 件名：「大間原子力発電所の地震等に係る新基準適合性審査に関する事業者  
ヒアリング（105）」

2. 日時：令和3年6月17日（木）13時30分～15時20分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁：小山田安全規制調整官、三井上席安全審査官※、佐藤主任安  
全審査官、中村主任安全審査官、永井主任安全審査官、大井安  
全審査専門職

電源開発株式会社※ 原子力技術部 部長 他13名

※テレビ会議システムによる出席

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・大間原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について  
（海洋プレート内地震）
- ・大間原子力発電所 敷地ごとに震源を特定して策定する地震動について  
（海洋プレート内地震）（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	儘田です。お疲れ様です。
0:00:02	それでは本日のヒアリング、大間の
0:00:06	当敷地ごとに震源地先を特定して策定する地震動について、うちは海洋プレート内地震について。
0:00:14	前開発の方から説明をお願いします。
0:00:18	はい、電源開発原子力技術部の高岡でございます。本日は、ただいまご紹介ありました
0:00:28	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動のうち海洋プレート内地震に関わる1回目のヒアリングになります。
0:00:37	先行地点の審議状況を踏まえて審査会合で審議していただけるよう資料を作成して、
0:00:44	おりますので、当初よろしく願いいたします。
0:00:48	漂流に先立ち、資料の確認をさせていただきたいと思います。本日御用意いたしましたのは、ACA150、151-2冊になります。
0:01:00	なお、
0:01:02	6月11日の審査会合で御審議いただいたプレート間地震のコメントとして記載を適正化は2件ほどございましたが、
0:01:12	資料の事前提出との
0:01:15	関係タイムラグの関係からですね、コメントについては7月1日の津波のヒアリングの際にコメントリストに記載してで記載内容を確認させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。
0:01:31	それでは資料に基づきまして、
0:01:35	よりむしろのご説明を建築担当の方から行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。
0:01:45	電源開発の坂本でございます。それではご説明いたします。
0:01:51	先日の審査会合でも御説明いたしましたけれども、海洋プレート内地震についても設置変更許可申請時点から内容の変更がございます。
0:02:01	主な変更点について私のほうから御説明をいたします。
0:02:06	ちょっと資料の真意 150 本編資料のほうですね。
0:02:10	そちらの2ページをご覧ください。
0:02:15	この1ページの中程に黄色四角が二つございますけれども年上の方、申請時につきましては、検討用地震の選定に当たりましての妥当の方に対してサイト内の地震観測記録に基づく
0:02:30	もう補正を行って検討用地震をする選定しておりました。

0:02:35	補正係数はB型或いはDC型のようなメカニズムを重視してメカニズムごとに設定をしてございました。
0:02:43	そうしたことで観測記録数がいっぱいある日本程度ことも少なかったための標準的な補正係数になっているかどうか、そういったところの説明性でや課題があったというふうに認識してございます。
0:02:57	この付けたりしまして、今回の御説明では4棟自身も選定方法を黄色の下段のほうに書いてありますように、片岡ほかの方法によって、健康を選定するように変更しております。
0:03:12	この背景といたしましては、一番上の極小のほうに書いてございますけれども、地震本部の強震動予測レシピ
0:03:21	こちらに2016年にそれぐらいのレシピが追加されたということが背景にございます。
0:03:27	もう新聞測量士気が海洋プレート内地震の標準的な評価手法であると考えられますので、
0:03:34	よろしくによる断層モデルの評価結果と簡便な応答スペクトルに基づく応答を比較した結果、片岡のほうがりスクの傾向とも類似していることが確認できました。
0:03:48	これを踏まえて片岡のほうによれば、標準的な評価によって検討用地震が選定できるものというふうに考えたということでございます。
0:03:56	これに加えて、片岡のほうでは対応プレート内地震の地震動は短周期が励起されるということが知られているわけですが、そこを踏まえて、回帰式のパラメーターに短周期レベルの設定されてございます。従いまして短周期レベルも適切に反映できるというふうに
0:04:14	考えて今回片岡の方法により選定をいたしました。
0:04:19	以上の選定候補の選考に加えて、検討地震の候補となる事例、これについて、地震規模が短周期レベルの不確かさ等について、先行地形の審査等を踏まえまして、見直した結果、
0:04:35	黄色の四角の二つ書いてございますけれども、
0:04:38	申請時点では検討用地震は想定浦川沖のスラブ内地震と想定とか中国スラブ内地震であったものが今回御説明では、敷地下方の想定スラブ内地震と想定とか長期スラブ内地震ということに変更になっております。
0:04:53	そうだとか蒸気スラブ内地震については申請時当行変わりはありません。
0:04:58	あともう一つ大きな変更点といたしまして、震源モデルの設定の考え方がございます。
0:05:05	申請時の検討用地震の震源モデルは、既往の地震の論文による震源モデル、

0:05:12	それを採用してございましたが、原則このメーターに短周期レベルの不確かさが織り込まれた形で基本モデルになっていたりとすることで多少わかりにくい面もございましたので、今回、いわゆるレシピが改訂されてそれぐらいのレシピが策定されたことによりまして、
0:05:30	考え方を整理する義務もありまして、リスクの考え方に基づいて基本モデルを設定して、
0:05:37	ですけれども、考慮するという形に整理し直しました。
0:05:41	以上を主な変更点になります。
0:05:44	それでは時震動評価の詳細につきましてはこれから担当のモリのほうから御説明いたします。説明時間は大体 50 分程度を考えております。よろしくお願ひします。
0:05:58	電源開発の森です。よろしくお願ひします。
0:06:02	それでは、今般資料のほうをご覧ください。
0:06:06	いつごとに震源を特定して策定する地震動のうち、
0:06:11	対応プレート内地震について御説明します。
0:06:16	1 ページをご覧ください。
0:06:21	本資料では、
0:06:22	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動のうち、
0:06:26	海洋プレート内地震について検討結果を示しています。
0:06:32	2 ページをご覧ください。
0:06:36	平成 26 年の設置変更許可申請からの主な変更点を示しています。
0:06:43	詳細は、先ほど御説明した通りです。
0:06:48	5 ページをご覧ください。
0:06:53	海洋プレート内地震の地震動評価フローを示しています。
0:06:59	握手調査として、
0:07:02	愛用プレート内地震の国内外の知見を整理し、
0:07:07	検討用地震の選定として、
0:07:09	東北日本弧及び島弧それぞれに店頭計装設定し、
0:07:15	すべての検討ケースに対して、
0:07:18	片岡ほかの方法により敷地への影響を比較し、検討用地震を選定しています。
0:07:26	その結果に地震が選定され、
0:07:30	東北日本弧の二重深発地震面の上面の地震である敷地下方の想定スラブ内地震と、

0:07:37	千島湖の沖合上浅い地震である想定とか長期スラブ内地震を検討用地震としてます。
0:07:46	6 ページをご覧ください。
0:07:51	ここから対応やプレート内地震の知見の整備について御説明します。
0:07:58	7 ページをご覧ください。
0:08:02	まず、会議をプレート内地震の知見の整理の方針について示します。
0:08:08	世界の海洋プレート内地震の特徴の整理から始まり、
0:08:13	東北日本弧千島湖の特徴及び海洋プレート内で発生する地震のパイプと特徴について整理し、
0:08:21	最後に東北日本弧と千島湖の海洋プレート内地震の発生状況について説明します。
0:08:30	8 ページをご覧ください。
0:08:35	時も 2 世帯の会議をやってる多摩川自身の地形について説明します。
0:08:42	Senoand次第では、
0:08:44	世界の浅い海洋プレート内地震について抽出し、
0:08:49	プレートの応力状態と地震の規模の関係について整理されています。
0:08:56	抽出された地震のうち、
0:08:58	最大規模の地震は、
0:09:00	島弧で発生した 1994 年北海道東方沖地震のMw8.3 とされています。
0:09:10	9 ページをご覧ください。
0:09:14	捨ての鞍部次第以降に発生した地震についても、
0:09:18	Mw8.3 を超える規模の浅い海洋プレート内地震は発生していません。
0:09:26	10 ページをご覧ください。
0:09:32	システナの安藤吉田による世界の浅い海洋プレート内地震の規模と海洋プレートの応力の関係の整理を示します。
0:09:41	世界の主な沈み込みのためのうち、
0:09:44	東北日本弧は策定規模の大きな海洋プレート内地震が知られていない地域に
0:09:51	字幕を策定規模の大きな海洋プレート内地震が発生している地域に分類されています。
0:10:00	90 ページをご覧ください。
0:10:04	これまで説明した世界の海洋プレート内地震の特徴の整理のまとめを示しています。
0:10:13	12 ページをご覧ください。
0:10:20	ここから

0:10:21	東北日本弧と千島湖の海洋プレート内地震の特徴の整理について説明します。
0:10:29	個数がTallによると、
0:10:31	東北日本弧ではBC型の地震が
0:10:35	千島湖ではDE型の地震が有税であり、
0:10:39	地震の発生状況が異なると考えられます。
0:10:45	13 ページをご覧ください。
0:10:50	ここから下へ通るの知見について説明が続きます。
0:10:56	海洋プレート内地震の発生状況について、
0:11:00	プレート上物自身は、東北日本弧から千島湖にかけて一様に分布している一方、
0:11:07	プレート面間及びプレート下面の地震は局所的に分布する傾向があり、
0:11:14	敷地の周辺における活動性は低いことがわかります。
0:11:20	14 ページをご覧ください。
0:11:26	IOプレート内地震のメカニズムについて、
0:11:29	東北日本弧及び千島湖とともに、
0:11:33	条文の地震は、DC型の地震が
0:11:36	プレート下面の地震は、D型の地震が卓越しています。
0:11:43	一方、
0:11:44	プレート面間の地震は、東北日本弧と千島湖で特徴が異なっており、
0:11:50	東北日本弧ではプレート上面の地震と同じDC型の地震の傾向。
0:11:56	一目では0と下面の地震と同じB型の傾向を有しています。
0:12:03	15 ページをご覧ください。
0:12:08	海洋プレート内の応力中立面の位置について、
0:12:13	下図の赤矢印で示されていますが、
0:12:16	東北日本弧では、
0:12:18	海洋プレート上面から約 21kmの深さの二重深発地震面の中央位置に位置していますが、
0:12:26	千島湖では、
0:12:27	海洋プレート上面から約 9kmの深さに位置しており、
0:12:32	千島湖のプレート上面のDC型の地震が発生する領域は薄くなっています。
0:12:41	16 ページをご覧ください。
0:12:46	揚力中立面の位置と大地震な断層面の関係について、
0:12:51	20 深発地震面で発生した規模の大きな地震の断層面は応力中立面を超えていないことが指摘されています。

0:13:01	東北日本弧と千島弧の応力中立名の位置の違いも踏まえると、
0:13:07	島弧のほうが、東北日本弧と比べて、DE型の地震の発生領域がつく規模の大きな地震が発生する可能性が考えられます。
0:13:19	17 ページをご覧ください。
0:13:24	応力中立面のうちに違うが見られるようについて整理されており、
0:13:30	東北日本弧と千島弧の応力中立面の位置の違いは、
0:13:35	島弧では海溝軸に対して太平洋プレートが斜めに沈み込むことで、沈み込み速度が遅くなる結果。
0:13:43	愛用プレート内の働く浮力による応力に違いが生じることが原因であると考えられます。
0:13:52	18 ページをご覧ください。
0:13:57	海洋性マントルで発生する地震の応力降下量について、
0:14:02	北 & 発また及び北で検討されています。
0:14:07	これらを踏まえると、
0:14:09	海洋性マントル内で発生した地震の応力降下量の中央値は、
0:14:14	東北日本超える千島湖のほうが大きい傾向となっており、
0:14:19	海洋性マントル内の応力状態は遠くにあること千島湖で異なると考えられます。
0:14:28	19 ページをご覧ください。
0:14:33	これまで説明した東北日本弧と千島湖のバイオプレート内地震の特徴の整理についてまとめを示しています。
0:14:43	20 ページをご覧ください。
0:14:49	ここから海洋プレート内で発生する地震のタイプと特徴について説明します。
0:14:56	ITOプレート内で発生する地震として、
0:15:00	沈み込む海洋プレート内の地震、
0:15:02	アウターライズ地震と、
0:15:05	沈み込んだ海洋プレート内の地震、
0:15:08	こちらは新発地震面の上メンバー自身下面の地震及び沖合のやや浅い地震の四つの地震タイプが挙げられます。
0:15:20	21 ページをご覧ください。
0:15:25	アウターライズ地震の特徴を示しています。
0:15:30	アウターライズ地震は海溝軸から沖合の領域で発生する地震です。
0:15:36	IOプレートが開口で沈み込む際に受ける下方への曲げに伴い生じる正断層型の地震であり、その傾斜角はパイをプレート上面に対して 60° 程度であるとされています。

0:15:52	なお、右図に示すように、敷地から海溝軸までの距離は約 330kmであり、アウターライズ地震の発生領域は非常に遠い関係となっています。
0:16:05	22 ページをご覧ください。
0:16:11	それからほかによると、
0:16:13	沈み込んだ海洋プレート内で発生する地震は、
0:16:17	深さ約 70kmから 150kmの範囲で二重深発地震面を形成しており、
0:16:23	これらの地震は含水鉱物の脱水に伴い生じた水の企業により発生すると考えられます。
0:16:32	23 ページでは状面な地震として 2011 年宮城県沖の地震、
0:16:39	24 ページでは下面の地震として 1993 年釧路沖地震について、中島Tallで分析されており、
0:16:49	その結果を踏まえると、20 深発地震面の地震はアウターライズの地震で生じた断層が含水鉱物等発生に伴い伝え活動することで生じると考えられます。
0:17:04	25 ページをご覧ください。
0:17:09	ダム事例等について、沖合のやや浅い領域で発生する地震について整理されています。
0:17:16	浅い領域ではプレート表面で正断層型、
0:17:21	ルート下面冷却断層型の地震が発生しており、
0:17:24	20 新発
0:17:26	地震面の上面と下面の地震のメカニズムとは逆の傾向を示しています。
0:17:34	26 ページをご覧ください。
0:17:39	ダメージプレートでは、これらの浅い領域といっぱい領域の二重地震面のメカニズムの違いについて、
0:17:47	海洋プレートに働く曲げと曲げ戻しによる応力で説明できるとされています。
0:17:55	沈み込んだ海洋プレート内地震のうち、沖合のやや浅い地震の発生期は海溝軸から対応プレート上限深さが約 20kmまでの領域であると考えられます。
0:18:10	27 ページをご覧ください。
0:18:15	これまで説明した場合をプレート内で発生する地震のタイプ等特徴についてまとめを示しています。
0:18:25	水が 8 ページをご覧ください。
0:18:32	ここから東北日本弧と千島湖の培養プレート内地震の発生状況について説明します。



0:18:41	東北日本弧及び千島弧で発生した主な海洋プレート内地震について、左の震源の分布つ及び右の表に示すように、泊タイトな地震の発生が認められますが、
0:18:54	敷地に近い青森県の東方議及び東北日本弧と千島弧の会合部付近ではM7以上の規模の大きな地震は発生していません。
0:19:06	なお、右下の米印の2に記載の通り、
0:19:10	2021年2月13日、福島県沖の地震について、現時点での知見は補足説明資料に整理していますが、今後引き続き知見を収集していきます。
0:19:24	29ページをご覧ください。
0:19:29	Fネットによりメカニズムが判明しているM6以上の海洋プレート内地震について発生状況を整理しています。
0:19:38	左マシンの分布図に示すように、青森県の東方沖及び東北日本弧と千島弧の会合部付近ではM6以上の海洋プレート内地震は発生していません。
0:19:53	30ページをご覧ください。
0:19:59	敷地内科医青森県東方沖で発生した地震について、震源分布とメカニズムを確認しました。
0:20:07	右の断面図に示すように、
0:20:10	敷地東側の東方沖におけるDC型とB型の地震の分布は、
0:20:15	Tallの示す東北日本弧の特徴に類似しています。
0:20:22	31ページをご覧ください。
0:20:27	これまで説明した東北日本弧と千島湖の培養プレート内地震の発生状況についてまとめを示します。
0:20:37	32ページをご覧ください。
0:20:41	認証で説明した海洋プレート内地震に関する知見について。
0:20:46	施設ごとのまとめを示しています。
0:20:50	また、33ページには、
0:20:52	東北日本弧と千島湖の海洋プレート内地震の地震タイプごとの特徴について整理しています。
0:21:00	個別の説明は割愛しますが、
0:21:03	海洋プレート内で発生する地震には四つの地震タイプがあり、
0:21:08	それぞれ発生状況やテクトニクスの特徴は異なります。
0:21:15	34ページをご覧ください。
0:21:20	ここから検討用地震の選定について御説明します。
0:21:26	3案15ページをご覧ください。
0:21:31	審査ガイドでは、震源パラメータの設定にあたり、

0:21:35	地震の規模や震源領域の設定に加え、
0:21:38	スラブ内地震については特に短周期レベルの適切な設定が求められています。
0:21:46	これを踏まえ、検討用地震の選定方針として、
0:21:50	東北日本弧と千島湖それぞれについて四つの地震タイプのうち敷地への影響が小さいと考えられる地震タイプ依頼を分配を地震の候補とした強震動予測レシピを踏まえ、基本ケースを設定します。
0:22:07	さらに地震動への影響は特に大きいと考えられる地震規模及びバン周期レベルについて不確かさケースを設定した上で、
0:22:18	地震規模、断層位置バン周期レベルを考慮して相対比較できる方法として、
0:22:24	またオカほかの方法により敷地への影響比較し、検討用地震を選定します。
0:22:33	36 ページを
0:22:35	ご覧ください。
0:22:38	検討用地震の選定フローを示します。
0:22:43	検討用地震の候補とする地震タイプについて、①で、この最大規模の地震を確認し、②で地震規模、
0:22:54	③で、断層位置、
0:22:56	④で短周期レベルを設定し、
0:22:59	⑤で、検討ケースを設定しています。
0:23:03	設定した検討ケースについて、片岡ほかの方法により面等地震を選定します。
0:23:11	37 ページをご覧ください。
0:23:16	審査ガイドに抵抗力が求められている地震規模、断層位置及び短周期レベルを考慮して相対比較は可能な距離減衰式として、
0:23:28	片岡他による方法を用いています。
0:23:32	38 ページをご覧ください。
0:23:37	まず、
0:23:38	東北日本弧に想定する海洋プレート内地震について説明します。
0:23:44	東北日本弧では発生領域が遠いアウターライズ地震を除く。
0:23:49	前震達人 7 丁目な地震バンが地震沖合のやや浅い地震についてなん対応地震の候補としています。
0:23:59	各地震タイプの設定にあたり考慮する最大規模の地震は表に示す通りです。
0:24:07	39 ページをご覧ください。
0:24:11	事業新発地震面の縄文が地震について説明します。
0:24:16	最大規模の地震として 2011 年 縞県沖の地震 Mw7.1 が発生しています。

0:24:26	また、40 ページをご覧ください。
0:24:30	同じMw7.1 の規模で知見がより得られている地震として、
0:24:36	2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震が発生しています。
0:24:43	41 ページをご覧ください。
0:24:48	地震規模について、
0:24:50	基本ケースでは、
0:24:52	東北日本弧で発生した二重深発地震面の上面の地震の最大規模であるMw 7.1 を設定します。
0:25:01	また、下の図に示すように、中島亨では 2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震の余震域のさらに北側に速度域があったことが指摘されており、
0:25:13	この領域も含め断層面としてMw7.4 の規模が考えられます。
0:25:20	青森県の東方沖でこのMw7.4 の規模の地震が発生するものと考え、
0:25:26	不確かさとしてMw7.4 の規模を考慮します。
0:25:32	42 ページをご覧ください。
0:25:36	2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震の断層をうちの特徴として、
0:25:41	やっぱり行政マントルで破壊したことが挙げられます。
0:25:46	それを踏まえ、43 ページをご覧ください。
0:25:51	断層位置は保守的にIO性マントルから応力中立名までの領域のうち、敷地に近い値に 60° の傾斜角の断層面を設定しています。
0:26:05	44 ページをご覧ください。
0:26:09	短周期レベルの設定について。
0:26:12	敷地周辺では規模の大きな地震が発生しておらず、短周期レベルAに関する知見が得られていないことを踏まえ、
0:26:19	基本ケースは、
0:26:21	強震動予測レシピによる標準的な値としています。
0:26:26	不確かさとしては、2021 年縞見学の地震の短周期レベルは 2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震と同程度以下と考えられることから、2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震の短周期レベルを踏まえ、
0:26:43	震度予測レシピの 1.5 倍を考慮しています。
0:26:49	45 ページをご覧ください。
0:26:53	東北日本弧の二重深発地震面の上面の地震として考慮する検討ケースを示します。
0:27:03	46 ページをご覧ください。
0:27:06	次に、東北日本弧の二重深発地震面の可能な地震の設定について説明します。

0:27:14	最大規模の地震として 2008 年岩手県沿岸北部の地震が発生しています。
0:27:22	47 ページをご覧ください。
0:27:27	地震規模について、基本ケースでは、東北日本弧の二重深発地震面の下面の地震の最大規模であるMw6.8 を設定します。
0:27:38	また、
0:27:40	東北日本弧の二重深発地震面の上面と下面の応力場がお概ね同じ厚さであり、
0:27:46	同じ規模の地震が発生しうると考えられることから、
0:27:50	不確かさとして二重深発地震面の上下の地震と同規模のMW7.4 を考慮します。
0:27:59	48 ページをご覧ください。
0:28:03	断層位置については保守的に、
0:28:06	応力中立により株のうち、敷地に近い位置にプレート表面に対して 60 度の断層面を設定します。
0:28:17	49 ページをご覧ください。
0:28:21	収益レベルについて基本決は強震動予測レシピによる標準的な値を設定します。
0:28:29	不確かさとしては、
0:28:31	2008 年岩手県沿岸北部の地震の短周期レベルを踏まえ、
0:28:36	強震動予測レシピの 1.6 倍を考慮します。
0:28:41	10 ページをご覧ください。
0:28:46	多く日本この二重深発地震面の可能な地震として考慮する検討ケースを示します。
0:28:54	51 ページをご覧ください。
0:28:58	東北日本弧の最後として、沖合の浅い地震について説明します。
0:29:05	最大規模の地震として 2012 年三陸大きな地震が発生しています。
0:29:12	12 ページをご覧ください。
0:29:17	地震規模について、基本ケースでは、東北日本弧の沖合の浅い地震の最大規模であるMw7.3 を設定します。
0:29:28	不確かさとして、東北日本弧と千島弧では、応力状態が異なると考えられるば保守的に、
0:29:35	東北日本でも、1994 年北海道東方沖地震のような浅い領域で、応力中立の超えるような地震が発生し得るとして、
0:29:46	Mw8.3 の規模を考慮します。
0:29:50	53 ページをご覧ください。

0:29:55	断層位置について、
0:29:57	基本ケースは、敷地に近いうちとして海洋プレート上方斜面高さ 20kmと概ね対応する位置に
0:30:06	プレート上下に対して 60 度の断層面を設定します。
0:30:11	不確かさケースの断層面については 1994 年北海道東方沖地震の特徴を踏まえ、
0:30:19	3.3. 2 項に示す断層面を設定します。
0:30:25	54 ページをご覧ください。
0:30:31	短周期レベルについて、
0:30:33	基本ケースは強震動予測レシピに基づく標準的な値を設定します。
0:30:41	不確かさとして保守的に同じ東北日本弧に想定する二重深発地震面の上下の地震と同様に強震動予測レシピの 1.5 倍を考慮します。
0:30:53	15 ページをご覧ください。
0:30:58	KURIONこの沖合のやや浅い地震として考慮する検討ケースを示します。
0:31:07	57 ページをご覧ください。
0:31:12	向こうから次に千島湖に想定する海洋プレート内地震の設定について説明します。
0:31:20	考慮する各地震タイプについて、最大規模の地震を表に示します。
0:31:27	千島湖の二重深発地震面の上下の地震について。
0:31:31	応力中立面の位置が海洋プレート上面から約 9kmと薄く
0:31:36	DC型として発生し得る地震規模が小さいため、敷地への影響は小さいと考えられることから、検討用地震の候補から除きました。
0:31:46	また発生領域が遠いアウターライズ地震についても広報自身から除き 20 深発地震面の下面の地震と沖合のやや浅い地震を検討地震の候補地震としています。
0:32:03	58 ページをご覧ください。
0:32:07	まず千島湖の二重深発地震面の下面の地震の設定について説明します。
0:32:14	最大規模の地震として 1993 年釧路沖地震が発生しています。
0:32:21	19 ページをご覧ください。
0:32:25	地震規模について、基本ケースは千島湖の二重深発地震面の下面の地震の最大規模であるMw7.6を設定します。
0:32:36	基本ケースを考慮希望したする知見は得られていないことから、規模の不確かさは考慮していません。
0:32:44	60 ページをご覧ください。

0:32:47	断層値について 1993 年釧路沖地震に相当する地震が千島湖西端の敷地に近い位置で発生する場合を考慮し、
0:32:58	地震本部 2009 を踏まえ、斜角 0° の断層面を設定します。
0:33:05	61 ページをご覧ください。
0:33:10	短周期レベルについて敷地の近い領域では、
0:33:14	短周期レベルに関する知見が得られていないことから、基本係数は強震動予測レシピの標準的な値を設定します。
0:33:23	不確かさとして 1993 年違う地震の短周期レベルを踏まえ、強震動予測レシピの 2.1 倍を考慮します。
0:33:34	62 ページをご覧ください。
0:33:38	千島湖の二重深発地震面の下面の地震として考慮する検討ケースを示します。
0:33:46	63 ページをご覧ください。
0:33:50	今このファイルをして、
0:33:53	小城浅い地震の設定について説明します。
0:33:57	最大規模の地震として 1994 年北海道東方沖地震が発生しています。
0:34:06	64 ページをご覧ください。
0:34:10	地震基盤について、基本ケースは千島湖の沖合のやや浅い地震の最大規模のMw8.3 を設定します。
0:34:21	確かさについて、基本ケースを超える希望したそれ知見を得られていないことから、考慮していません。
0:34:29	65 ページをご覧ください。
0:34:33	断層位置について 1994 年北海道東方沖地震に相当する地震が
0:34:40	千島湖西端の敷地に近い位置で発生する場合を考慮し、
0:34:44	地震本部の線形を踏まえ、
0:34:47	社宅 75° の断層面を設定します。
0:34:52	66 ページをご覧ください。
0:34:57	短周期レベルについて、基本ケースは収収の予測レシピによる標準的な値を設定します。
0:35:06	不確かさとして 1994 年北海道東方沖地震の短周期レベルを踏まえ、強震動予測レシピの 2.0 倍を考慮します。
0:35:17	67 ページをご覧ください。
0:35:21	千島湖の沖合のやや浅い地震として考慮する検討ケースを示します。
0:35:29	68 ページをご覧ください。
0:35:34	設定した検討用地震の候補の検討ケースしみについて緒元を示します。

0:35:41	69 ページをご覧ください。
0:35:46	東北日本弧及び千島湖の検討を踏まえ設定した検討用地震の候補について、
0:35:53	タカオカほかの方法により敷地への影響を比較しました。
0:35:58	左の図に全ケースの比較結果を示しており、
0:36:02	真ん中に示す凡例に従い地震タイプごとに変えて、応答スペクトルを示しています。
0:36:10	周期 0.7 秒より短周期側では桃色で示す東北日本弧の二重深発地震面の上限の地震が
0:36:20	敷地への影響が大きく、
0:36:22	周期 0.7 秒より長周期側では紫色で示す千島湖の沖合のやや浅い地震が敷地への影響が大きい結果が得られました。
0:36:33	以上を踏まえ、これらの地震を検討用地震として選定しています。
0:36:40	70 ページをご覧ください。
0:36:45	検討用地震の選定のまとめを示しています。
0:36:50	東北日本弧及び千島湖の検討を踏まえ、
0:36:54	基本的には地震の候補を設定し、
0:36:57	また、他の方法により敷地への影響比較した結果、
0:37:02	東北日本弧の二重深発地震の上下の地震である敷地下方の想定スラブ内地震と、
0:37:09	千島湖の沖合のやや浅い地震である想定十勝沖スラブな地震を検討用地震として選定しています。
0:37:19	71 ページをご覧ください。
0:37:23	ここから 4 棟用地震のうち敷地下方の想定スラブ内地震の地震動評価について説明します。
0:37:33	72 ページをご覧ください。
0:37:37	敷地下方の想定スラブ内地震の震源モデルは、
0:37:41	強震動予測レシピに基づき設定しています。
0:37:46	震源モデルは 2011 年の福島県沖の地震及び 2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震を踏まえ設定しており、
0:37:55	基本ケースは Mw7.1 の規模を想定しています。
0:38:01	断層面については、
0:38:03	採択がああいうプレート上面に対して 60 度の断層面を
0:38:07	バイオプレー海洋性マントル内の敷地に近い位置に設定し、
0:38:12	SMGAを敷地に寄せ第 1 として、断層上端に設定してます。

0:38:19	73 ページをご覧ください。
0:38:23	設定した基本ケースの震源モデルを示しています。
0:38:29	74 ページをご覧ください。
0:38:34	考慮する不確かさについて整理しています。
0:38:39	今日注記表で示すように、認識論的不確かさとして地震規模、断層位置及び短周期レベルについて考慮しています。
0:38:50	75 ページをご覧ください。
0:38:54	設定した検討ケースを示しています。
0:38:58	各ケースの設定は表に示す通りです。
0:39:02	断層位置の不確かさとして、右下の断層の断面位置図に示すように、
0:39:08	断層上端を海洋性地殻上端としては一応考慮しています。
0:39:16	76 ページをご覧ください。
0:39:21	断層パラメータは強震動予測レシピに基づき設定しています。
0:39:27	設定した断層パラメータは 77 ページに示しています。
0:39:33	78 ページをご覧ください。
0:39:37	設定した地震規模について、地震本部と比較して確認しています。
0:39:43	地震本部では日本海溝沿いで発生する沈み込んだ海洋プレート内地震として M7 から 7.5 の規模が想定されているのに対し、
0:39:53	検討用地震として、基本ケースで M7.3。
0:39:57	不確かさケースで M7.5 に相当する規模、敷地に近い位置に想定しており、
0:40:04	震源モデルの設定は既設であることを確認しました。
0:40:10	79 ページをご覧ください。
0:40:15	地震動の評価方針について説明します。
0:40:20	応答スペクトルに基づく地震動評価章として、
0:40:24	地震規模、断層位置案周期レベルを評価できる片岡ほかの方法に加え、
0:40:30	水平成分と鉛直成分を両方評価できる場合と②の方法による評価を実施しています。
0:40:39	前通るによる広報では、敷地周辺で発生した海洋プレート内地震の観測記録に基づく補正を考慮します。
0:40:49	断層モデルを用いた手法による地震動評価手法については、
0:40:53	要素地震に適した地震が発生していないことから、
0:40:56	統計的グリーン関数法による地震動評価を実施しています。
0:41:03	80 ページをご覧ください。
0:41:08	モバイル通るによる方法で考慮する補正係数について説明します。
0:41:14	敷地で記録が得られた地震のうち、



0:41:17	ナガイ通る乗ってきて範囲内の地震について。
0:41:21	やばい通るとTP-230mにおけるはぎとり派の段差を計算しています。
0:41:29	計算した残差を右下の図に示していますが、
0:41:33	地震タイプで分けるほどの観測記録数はないことを踏まえ、
0:41:37	観測記録の残差の平均値を参考に水平成分鉛直成分ともに3倍の補正係数を設定しました。
0:41:48	81ページをご覧ください。
0:41:51	統計的グリーン関数法に用いる地盤モデルを示します。
0:41:58	82ページをご覧ください。
0:42:02	ここから地震動評価を別途お示しします。
0:42:06	まず応答スペクトルに基づく評価結果を示しています。
0:42:12	サイト補正係数を考慮したのだよ道路の方法による評価結果は水平成分の播州機器について、
0:42:20	片岡ほかの方法による評価といったとよい対応を示しています。
0:42:27	83ページをご覧ください。
0:42:31	ここから94ページまで断層モデルを用いた手法による評価結果を示しています。
0:42:39	それぞれ応答スペクトル、
0:42:41	加速度時刻歴はけ
0:42:44	速度時刻歴発表の順に、
0:42:46	基本ケース。
0:42:48	断層位置の不確かさケース。
0:42:50	地震規模の不確かさケース。
0:42:53	あん周期レベルの不確かさケースについて示してます。
0:42:59	95ページをご覧ください。
0:43:04	弾性モデルを用いた手法による地震動評価結果のまとめとして全ケースの応答スペクトルを示しています。
0:43:14	96ページをご覧ください。
0:43:18	ここから限定は地震のうち、到底とか長期スラブな地震の地震動評価について説明します。
0:43:27	97ページをご覧ください。
0:43:32	下請けとか強気スラブな地震の震源モデルを
0:43:36	強震動予測でスピーディーに基づき設定しています。
0:43:40	震源モデル 1994年北海道東方沖地震を踏まえて設定しており、
0:43:46	基本ケースはMw8.3の規模を想定しています。

0:43:51	地震本部を踏まえ、斜角 75° の断層面を
0:43:56	千島湖西端の敷地に近い位置に設定し、
0:43:59	SMGAは断層中央に等間隔に配置したものを考慮して敷地に寄せた位置に設定しています。
0:44:10	98 ページをご覧ください。
0:44:15	設定した基本ケースの震源モデルを示しています。
0:44:20	SM事業について、
0:44:22	強震動予測レシピを参考に設置した設定として断層中央に五行等間隔の配置が考えられますが、
0:44:31	より保守的な設定として、敷地に近づくような断層上端に合わせて配置しています。
0:44:38	99 ページをご覧ください。
0:44:43	考慮する不確かさについて整理しています。
0:44:47	表中黄色で示すように、認識論的不確かさとして地震議を及び男爵レベルについて考慮しています。
0:44:56	なお、SMGA位置については、プレート間地震ほどSMGAに関する知見が得られていないことを踏まえ、偶然的な不確かさとしています。
0:45:08	ページをご覧ください。
0:45:12	設定した検討ケースを示します。
0:45:16	各ケースの設定は表に示す通りです。
0:45:21	地震規模の不確かさケースでは、
0:45:24	真ん中下の図に示していますが、
0:45:27	Mw8.4 の考慮に伴い、断層長さが長くなりSM事業の考え方もあわせて広げた配置が考えられますが、
0:45:36	SMGA位置は保守的に基本ケースに対応する位置に設定しています。
0:45:43	101 ページをご覧ください。
0:45:47	断層パラメータは強震動予測レシピに基づき設定しています。
0:45:53	設定した断層パラメータは着任頁に示しています。
0:46:00	103 ページをご覧ください。
0:46:04	設定した地震規模についてで新本部と比較して確認しています。
0:46:09	地震本部では、
0:46:11	千島海溝沿いで発生する沈み込んだ海洋プレート内のやや浅い地震として、
0:46:16	M8.4 前後の規模が想定されているのに対し、
0:46:21	ベントを実験として、基本ケースM8.2。

0:46:25	確かさケースでM8.4に相当する規模、敷地に近い位置に想定しており、震源モデルの設定は適切であることを確認しました。
0:46:37	104 ページをご覧ください。
0:46:41	地震動の評価方針について説明します。
0:46:46	応答スペクトルに基づく地震動評価章として、
0:46:50	敷地下方の想定スラブ内地震と同様に、片岡ほかの方法に加えられ通るの方法による人事評価を実施しています。
0:47:01	断層モデルを用いた手法による地震動評価章については、
0:47:06	要素地震として用いることができる記録が得られていることから、
0:47:10	経験的グリーン関数法による地震動評価を実施しています。
0:47:16	105 ページをご覧ください。
0:47:20	要素地震は、左の図に示すように想定する断層面近い位置で発生した地震を選定しています。
0:47:28	要素地震の地震モーメントはKiK-netの値を設定しており、
0:47:33	コーナー周波数を震源周辺の観測記録を用いて推定しています。
0:47:39	右下の図に示すように、震源パラメータに基づく理論震源スペクトルは観測記録とよく整合するものとなっています。
0:47:49	もうそれ以深の剥ぎ取り範囲については 106 ページに示しています。
0:47:56	107 ページをご覧ください。
0:48:00	ここから地震動評価結果について説明します。
0:48:05	まず応答スペクトルに基づく評価結果を示します。
0:48:10	サイト補正係数を考慮したのがTallの方法による評価結果は、
0:48:15	水平成分の短周期域でまたこの方法による評価結果結果よりも大きくなっています。
0:48:23	108 ページをご覧ください。
0:48:27	向こうから 113 ページまで断層モデルを用いた手法による評価結果を示しています。
0:48:34	それぞれ応答スペクトル加速度及び速度の時刻歴発表の順に、
0:48:39	基本ケース、地震規模の不確かさケースバン周期レベルの不確かさケースについて示しています。
0:48:47	114 ページをご覧ください。
0:48:51	断層モデルを用いた手法による地震動評価結果のまとめとして、
0:48:56	全ケースの応答スペクトルを示しています。
0:49:01	以上で対応プレート内地震の本編資料に関する説明を終わります。
0:49:06	続きまして、資料Cへ 151 をご覧ください。

0:49:13	補足説明資料について説明します。
0:49:18	2 ページをご覧ください。
0:49:22	1968 年十勝沖地震の最大余震について、地震本部では海洋プレート内地震として整備されていますが、四つの地震タイプに分かれる投資な地震であると考えており、メカニズム等を確認し、敷地への影響を確認しています。
0:49:40	3 ページをご覧ください。
0:49:44	地震本部では 1968 年十勝沖地震の最大余震について、海洋プレート内地震として整理されており、
0:49:53	そのメカニズムは正断層がどうであったとされています。
0:49:58	4 ページをご覧ください。
0:50:11	水谷では、震源のメカニズムとしてプレートの沈み込みに対して平行な断層面が推定されており、
0:50:19	アウターライズ地震による断層の再活動とはタイプが異なると考えられます。
0:50:27	5 ページをご覧ください。
0:50:31	1968 年十勝沖地震の最大余震の敷地付近における深度は本震を待っており、
0:50:39	敷地付近で震度は読んであったことを踏まえると、
0:50:42	敷地への影響は小さいことを確認しています。
0:50:48	6 ページをご覧ください。
0:50:53	1968 年十勝沖地震の栽培をしみつについてまとめを示しています。
0:51:01	7 ページをご覧ください。
0:51:05	2021 年 2 月 13 日に福島県沖で発生した Mw7.1 の地震について。
0:51:13	5 月 21 日時点の知見を示しています。
0:51:18	このうち、特に短周期レベルに着目した検討について説明します。
0:51:24	11 ページをご覧ください。
0:51:31	市に 0 日では、
0:51:33	同じ Mw7.1 である 2021 年福島県沖の地震及び 2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震について、観測記録と C 緑川による予測値の比較が示されています。
0:51:51	その結果を見ると、2021 年福島県沖の地震は 2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震ほどパン周期が卓越しなかった可能性が考えられます。
0:52:05	12 ページをご覧ください。
0:52:10	〇ー2021 では、
0:52:12	同じく、2021 年福島県沖の地震と、
0:52:16	2011 年 4 月 7 日宮城県沖の地震について、最大加速度と最大速度の比を示しています。

0:52:26	この比の比較により、
0:52:28	2011年 福島県大きな地震は、
0:52:31	2011年 4月7日から引きの大きな地震ほど短周期が卓越しなかった可能性が考えられます。
0:52:39	以上の検討結果を踏まえ、
0:52:41	本編資料の中で説明したように2021年の福島県沖の地震の短周期レベルは2011年 4月7日宮城県沖の地震と同程度以下であると考えており、
0:52:54	検討用地震の設定では2011年 4月7日宮城県沖の地震の短周期レベルを考慮しています。
0:53:03	13ページをご覧ください。
0:53:07	アウターライズ地震について発生領域が敷地からということ踏まえて検討を地震の選定候補から除いていますが、念のため、外挿ではあるが、片岡ほかの方法により比較しました。
0:53:22	14ページをご覧ください。
0:53:27	比較結果について、右図に示していますが、
0:53:30	検討用地震としてアウターライズで想定されて、想定される規模に近い地震規模を設定している想定とか蒸気スラブな地震と比較した結果、
0:53:42	右図に示すように、敷地への影響は小さいことを確認しました。
0:53:49	15ページをご覧ください。
0:53:54	経験的グリーン関数法で地震動評価を実施している想定十勝沖スラブ内地震について統計的グリーン関数法による評価を実施し比較しました。
0:54:06	統計的グリーン関数法に用いる地盤モデル等について、16ページに示しています。
0:54:14	17ページをご覧ください。
0:54:18	経験的グリーン関数法と統計的グリーン関数法による評価結果の比較を示します。
0:54:26	経験的グリーン関数法による結果は、
0:54:29	統計的グリーン関数法による結果と概ね同程度であることを確認しました。
0:54:36	18ページをご覧ください。
0:54:40	想定を楽大きいスラブ内地震について、設置変更許可申請時に検討用地震としていたことを踏まえ、
0:54:48	断層モデルを用いた施工においても地震動評価を実施し、検討用地震と比較しています。
0:54:56	19ページをご覧ください。
0:55:00	想定グループ大きいスラブ内地震の震源は1993年 釧路沖地震が

0:55:06	千島湖西端の敷地に近い位置で発生する場合を考慮し、
0:55:11	地震本部を踏まえ、弊社株 0° の断層面を設定します。
0:55:17	20 ページをご覧ください。
0:55:22	震源ば断層パラメータは強震動予測レシピに基づき設定します。
0:55:29	設定したパラメータを 21 ページに示していますが、
0:55:34	ここでは、敷地への影響が大きいケースとして、
0:55:37	短周期レベルの不確かさケースを設定しています。
0:55:43	22 ページをご覧ください。
0:55:48	敷地への影響が大きいケースとして敷地下方の想定スラブ内地震では、地震規模の不確かさケースと短周期レベルの不確かさケース。
0:55:58	想定とか通訳スラブな地震では、短周期レベルの不確かさケース。
0:56:03	想定裏後期スラブの地震ではバン周期レベルの不確かさケースについて、地震動評価結果を比較しました。
0:56:12	左側の図にタカオカほかによる比較
0:56:16	右側の図に統計的グリーン関数法による比較を示しています。
0:56:22	想定浦河沖スラブな地震は片岡ほかの方法による評価と同様に検討用地震と比べて敷地に与える影響は小さいことを確認しました。
0:56:35	以上で、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動のうち、
0:56:40	ああいプレート内地震についての説明を終わります。
0:56:46	規制庁のコヤマダです。ご説明ありがとうございました。
0:56:49	それでは規制庁側のほうから確認を行っていきたいと思ひまして、
0:56:54	何かありましたらお願いします。
0:56:57	はい。規制庁の佐藤です。
0:56:59	まず資料の充実をお願いしたいんですけども。
0:57:04	敷地周辺における地震の発生状況っていうのが多分この資料にはないなと思っていて、ちょっと目次を見ていただくと。
0:57:14	3 ページのところね。
0:57:17	中身に入る前に 2 ポツの検討海洋プレート内地震の知見の整理ってあるんだけど多分この前に
0:57:24	そういったそのうち敷地周辺における地震の発生状況、
0:57:28	多分その資料を入れていただくのが
0:57:34	いいのかなというふうに思ひまして、その資料を追加していただきたいと。
0:57:40	というのがまず一つ。
0:57:42	それから先般ね、申請書の誤りのして御説明いただきましたけども、
0:57:50	誤り 1 と 2 ってやつがあって、

0:57:53	それは何かっていうと、
0:57:56	想定浦河大きいスラブ内地震の基本モデル、基本震源モデルと不確かさを考慮したケース。
0:58:04	っていうのとそれから、
0:58:06	想定とか蒸気がスラブ内地震の断層パラメーターの基本震源モデルっていうのが多分誤りの①②に該当すると思うんだけど。
0:58:17	これこの前も申し上げたようにそれは審査の中でちゃんと楽しい値が使われているかどうかっていうのを確認しますというふうに申し上げているので、
0:58:26	これ何らかの形でですね、途中の結果でもいいし、何らかの形でビフォーアフターを示していただいて、ちゃんと正しい値を使っていますっていうのをお示しいただきたいというふうに思っていますけど。
0:58:41	この2点いかがですか。
0:58:49	電源開発のモリモリです。一つ目のえってミツイで、地震の発生状況については、概要版で示したような資料を
0:59:00	一章と2章の間に入れてお示ししたいと思います。
0:59:11	規制庁サトウですけど、それは海洋で示したから今回入れなかったっていうスロ一返すとそういうことなんですかね。
0:59:25	電源開発の森です。
0:59:27	大変失礼いたしました。
0:59:31	2.4節のほうでは、例えば28ページ29ページのほうでは規模の大きい地震については、発生状況について示しているんですけども。
0:59:43	規模の期待で使用も含めて、発生状況についてお示ししたいと思います。
0:59:49	規制庁佐藤です。やっぱベーシックなデータはちゃんと付してもらわないと駄目ですね。
0:59:55	それから誤り①②についてはどうですか。
1:00:05	電源開発の安田です。
1:00:07	Q値はですね今回パラメーター表のほうからは、
1:00:12	統計的グリーンかあそのようにですね直接その使ってるわけではないので、このパラメータ評価法に直接は記載しておりませんが、具体的に105ページをご覧くださいですね。
1:00:34	100ページのこの審議パラメーターも表のですね、下※2というところで救急調整90こういった数値を使ったかということで、今回の川瀬松尾の
1:00:49	UF109F0.73 大手といったところをちょっと
1:00:54	この資料の中ではこのページのほうに記載させていただいております。
1:01:02	規制庁佐藤です。

1:01:05	書きましたっていうだけではそれ正しいものが使われているのかどうか、これ間違った値だったらどうだったのかっていうその確認ができないんですね。
1:01:14	なので何らかの形で示し方はお任せしますけども、
1:01:18	今その川内松尾の9だけ言ってるんだけど例えばこれ、短周期レベルとかもあるわけですよその想定十勝大きいスラブ内地震の断層パラメータとか、
1:01:29	そういったものをちゃんとビフォーアフターで我々確認できるように、
1:01:34	補足説明資料でも結構ですし、巻末のほうにでも結構なんですけども、そこをちゃんと入れていただきたいというふうに思ってるんですが、いかがですか。
1:01:45	電源開発がそうです。ご趣旨を理解しましたので7番の形で対応したいと思います。
1:01:52	ちゃんと先日の審査会合で申し上げているわけだから、そこはちゃんと資料に入れ込んでいただきたいというふうに思います。
1:01:59	よろしいですね。
1:02:02	電源開発がそうです。承知いたしました。
1:02:05	それからね冒頭カトウか他を使ったりサカモトさんがタラタラって何か施工説明いただいたんですけども、何でそれ資料にちゃんと書かないんですか。
1:02:16	それから震源モデルモリ核のモデルを使っているようだけでもそこから変更加えてるというふうなことであれば、何でその書いた今回申請ベースから変えたのか。
1:02:28	その理由をちゃんと書いて資料に書いてもらわないと我々確認ができないので、そこをちゃんと書いていただくように申し上げておきますけど、よろしいですか。
1:02:42	はい手形つもりですし、イントラ満点承知いたしました。
1:02:48	まずね今回の資料ちょっとベーシックなところが抜けているね。
1:02:52	資料としては、
1:02:57	それでちょっと本題に入るんだけどね。
1:02:59	そうやっぱりそう流れとしてやっぱりあまりその何ていうかな。ずっと落ちないところがあって、
1:03:07	さっき言ったその37ページ、片岡ほか2006を使いますと言いながら、
1:03:14	ですよ。
1:03:15	結局これ水平成分しかないから、鉛直動は結局の大通るで作りました考えましたと。
1:03:23	言うわけよね。
1:03:24	そういうところのTall使えばいいんじゃないかって話もあるんだし。



1:03:28	何でこの片岡ほかを今回使ったのか、ちょっと中身の説明をして欲しいんだけど。
1:03:39	IAEA等々で挙げたつもりです。片岡他を用いた理由としましては、
1:03:45	37 ページのほうに片岡ほかの
1:03:50	におけるは距離減衰式が示されていますけれども、
1:03:54	時診療登壇装置に加えて、ノスラブ内
1:03:59	地震としては、特に短周期レベルの設定が大事だという。
1:04:03	それとも、
1:04:04	求められているところも踏まえてそれらを
1:04:07	コールできる距離減衰式としてタカオカを採用してるということになります。
1:04:17	規制庁佐藤です。書いてることをそのまま言われても駄目なんだけど。
1:04:21	じゃあ逆になんでNodaetal使わなかったんですかという質問をしますけども、
1:04:29	電源開発の森です。
1:04:33	もしもこうを東北日本弧で応力降下量を短縮レベルですね企業の最大地震の短周期レベルを見ると倍率が方を 1.5 倍程度で、片や二倍程度当番差があることから、
1:04:48	野田通るによる方法は、ちょっとその差を同じ同性状で評価するのは難しいというふうに
1:04:56	考えております。
1:04:59	規制庁佐藤です。ちょっと先行サイトのこれまでの審査知見見るとの大通るで一応やってきているという新設実績はあるんですよ。
1:05:11	で、
1:05:12	来許可にサイト例えば原燃とかリサイクルは御社の言ってるその最後。
1:05:18	敷地下方の想定スラブ内とそれから、
1:05:22	想定とか長期スラブ内ね。
1:05:26	これ比較して敷地下方のスラブ想定スラブ内地震のほうが上回っているので、
1:05:36	十勝沖想定とか長期いわゆる
1:05:39	釧路沖地震を千島湖の西側のはじめに寄せたモデルっていうのを上回っているなので、影響評価ケースとしてはやってみましたというそういう位置付けになっていると。
1:05:53	先般の東通については、考慮してもやっぱりその敷地下方のスラブ内地震のほうが上回っていてチャンピオンになっているというふうなストーリーなんだけども、
1:06:08	御社の場合はこれ両方検討用地震として考えましたというんだけども、

1:06:14	敷地下方の想定スラブ内地震のほうが上回るんじゃないかなと思っていたんだけど、長周期で十勝沖スラブ内のほうが上回っているのという説明なんだけどね。
1:06:28	これって何なんでそうなったのかなというふうに思うんだけども、何か考察とか分析とかしているんであればちょっと教えて欲しいんですけどもや結果はそうですって言われたらそれまでなんですけど。
1:06:42	だって、両方の際、想定スラブ内その二つのケース今敷地下方とそれから十勝沖の二つのケース、
1:06:52	多分東通とかそれから六つりサイクルとか比べたら脅威は多分あるはずなんだよね。あまりてるはずなんだよね。
1:07:01	何でそういう結果になるのかっていうのはちょっと私まだ理解できてないんだけど、分析をしているんであれば教えて欲しいんです。
1:07:21	電源開発のオイヌマです。東通のサイトで野田の方法を使って
1:07:30	横並びで、
1:07:31	105 されてると思うんですけども、その時の一つの手法として短周期レベルの費用ですね。
1:07:39	その通常の様の方の方向に倍率を掛けて、
1:07:44	計算をされているかと思うんですけど。
1:07:47	それでやると、確かその長周期側のほうが、その一部ですね、敷地下方の結果を確か超えていたと思うんですけども、
1:07:58	ちょっとそういったところは、今回の結果は、
1:08:04	全く整合しないというものではないのかなと。
1:08:07	思っているんですけども、お答えになってるでしょうか。
1:08:11	規制庁サトウですけども。
1:08:14	そこまで長周期を気にされる理由が何かあるんですか。例えば
1:08:20	将来的にですよ、例えば免震構造考える建屋があつて、長周期のほうを重んじなければならないというふうな理由があつて、
1:08:30	私はこの資料見る限りそう見えるんだけど。
1:08:33	そういうお考えがあるんですかね。今明示的にお答えしてやらなくても結構なんですけど、将来の話なんではない。
1:08:41	弁閉その思いますからそういった御質問であれば、免震棟建てる予定はないので、その説にとって、
1:08:49	影響のある周期体という点を踏まえれば、ご指摘の通り、敷地下方のものがですね、代表的なものとして選ばれると思います。はい。
1:09:00	うん。わかりました。理解はしました。

1:09:04	やっぱりこの加藤川ほかを使うっていうところはね、ちょっとミソがありまして、
1:09:11	ここはやっぱりもう少しそのなぜ使ったかっていうの冒頭申し上げましたけども、ちゃんと理由を考え方をもう少し書いてもらわないと。
1:09:21	ちょっと箱の話議論しにくいなというふうな感じを受けましたと。
1:09:26	それからあとはちょっと細かいところを申し上げると、
1:09:34	そうだな。
1:09:37	69 ページをちょっとお願いしたいんですが。
1:09:43	これ結局片岡ほかって水平二成分を構成してるからこれ 1 本しかないんだよね、多分、
1:09:49	計算したケース、これは確認です。
1:09:54	ゲンタツモリですねとおっしゃる通りで、水平二成分の合成値なので 1 本しかありません。
1:10:00	はい、了解しました。
1:10:04	規制庁サトウですけれども 73 ページなんですけど、基本震源モデルの設定のところで、
1:10:11	等価震源距離をまたどっかに出たと思うんだけど等価震源距離を
1:10:17	このモデルに変えて欲しいんですが、
1:10:21	さっき見てたら特化で書いていたような気がするのですが、
1:10:26	日前々回発生面積どうぞ。はい、とても開発のモリです。ええと等価震源距離については 82 ページのほうですね、応答スペクトルの評価のページに表に
1:10:39	左下の表に示して、
1:10:43	モリます。
1:10:45	うん。規制庁サトウですけども模式図に書いてもらったほうがよりわかりにくいので 20、20 になってもいいので。
1:10:53	ここにもちゃんと明記をしていただきたい。
1:10:57	いかがですか。
1:10:59	はい、わかりました。これが 13 ページに示しているのは基本係数であるので基本ケースのその等価震源距離について、示したいと思います。
1:11:11	それから 79 ページなんだけど。
1:11:16	この中の応答スペクトル法に基づく地震動評価でさっきも申し上げましたけど、二つ目のポチなんですけど、
1:11:24	結局鉛直成分がないので片岡は野田の方法でも一鉛直成分を考えましたっていうこのストーリーのちょっと何ていうかな。
1:11:35	ちょっとちぐはぐ頑張るんだよね。
1:11:38	できれば結局御社どっちを対応措置を

1:11:42	よりどころにするんですか。
1:11:54	電源開発のオイヌマです。
1:11:56	ご指摘の通りなんですねまずちょっと経緯だけご説明させていただくと。
1:12:03	まず除染をする上ではその短周期レベルがスラブ内地震の検討用地震の選定にあたって非常に重要だというふうに認識をしまして、その主義レベルを直接入れられる
1:12:18	また、日確保とかタカオカでこうしたっていうの前提がありまして、ただご指摘の通り、上限については、片方が消火し切れないので、観測記録の補正を使って、
1:12:35	また、評価をしているということもありますので、ちょっとここら辺の位置付けとかですね、その間、
1:12:43	ロジックですね、店最後いたします。
1:12:46	以上です。
1:12:48	はい、はい。そこは考え方をまずはちゃんと明記をしていただいて、審査会で議論させていただきたいと思います。ちなみに。
1:12:57	当初申請ではこれ無駄でもやってるんですよ確か窓以外でも実はやってるんだけど幾つかの
1:13:04	距離減衰式使ってるんだけど、そうでしたよね。
1:13:12	電源開発の安田です。ご指摘の総オオイです。
1:13:17	ほぼ
1:13:18	次 80 ページなんだけど。
1:13:20	補正係数の算定で地震タイプで分けるほど観測記録は少ないっていうことは、このプレート間も含んでるっていうことですねそうすると
1:13:31	先行の確かに多くはないんだけど四つ五つぐらいで営業と一応補正係数は二倍とか 3 倍とかまあ、そういうふうに見積もっているところはあるんですけども。
1:13:43	御社の場合は固定とかも含んでいると思ってよろしいですかね。
1:13:49	電源開発の森です。左バーのほうに大南も一緒にしていますけども、プレート間地震とされる低角逆断層のものは除いて、
1:14:02	対象としています。
1:14:05	んの。
1:14:08	いやそれっぽいやつ持ったんで、何か入ってるのかなと思ったんだけど、そうするとこれ、
1:14:14	地震タイプで分けるほど観測記録は少ない。
1:14:17	っていうのはちょっと言い過ぎなんじゃない。

1:14:20	少なくとも 10 何戸あるわけですよ。それなりに、
1:14:26	何かそこ整合とれてないような気がするんだけど、いかがですか。
1:14:30	電源開発のオイヌマです。ちょっとこれ誤解を招いたようで記載をもう少し丁寧に書く必要があるというふうにわかったんですが、ここで言っているタイプというのは、僕資料を見ました。
1:14:50	10、10 ページ。
1:14:55	20 ページをご覧いただきたいんですが、
1:15:04	この
1:15:05	アウターライズ後 22 / 地震面の情報面、
1:15:09	反面、沖合というその四つのタイプに分類することには、
1:15:15	多くないという趣旨で書いたものですから、ちょっと誤解を産んでいるようなので、記載を適切にします。
1:15:23	そう、それをこの記載から読めっていうのは、
1:15:27	それはちょっと無理だよ。
1:15:30	断層ちょっとそれは文章の適正化をお願いしますとしたら、
1:15:35	電源開発のオイヌマです。承知いたしました。
1:15:39	それからさ 82 ページもねやっぱりそのおんなじでも結局どっちによって立つんだっていうのは私はこの文章、この資料からわからなかった。
1:15:47	どっちによって立つんだっていうね、そこはちょっとコメントだけしておきます。
1:15:53	どっちとよって立つんだっていうのは
1:15:55	今後ともやっぱりよくわからない。
1:15:57	市長がわからない。
1:16:00	これは 98 ページ。
1:16:04	想定とか長期の話モデルの話、これも等価震源距離ですかね。これも書いてたと思うんだけど、
1:16:11	もし何かその模式図に何かあった方が多いわかりやすいかなというふうに思って思いました。
1:16:18	これは 100 ページのほうがいいのかな、100 ページの模式図のほうのかな。
1:16:23	もうちょっとお任せしますけども、そこは、
1:16:26	これもコメントだけしておきます。
1:16:30	はい、電源開発モリです。ご指摘の点承知しました。98 ページ 100 ページ、
1:16:40	わかりやすいほうにですね、等価震源距離基本ケースの当貸見込みについて記載したいと思います。
1:16:47	あと 106 ページなんですけど、これと、想定十勝沖計算するときこの要素地震使って経験的でやってるんだけど。

1:16:57	この前の審査会合でもねあまりちょっと納得した答えは得られてなかったんだけど。
1:17:02	上下動で見て欲しいんだけどやっぱり 0.5 秒ってね、これどんな要素地震使ってもお宅の敷地ってやっぱり立つんじゃないのかなと思っていて、
1:17:13	それが証拠に補足説明資料の 17 ページで、EGFとSGFって、
1:17:19	比較したやつがあって、
1:17:22	鉛直成分の 0.5 秒みてくださいよ。
1:17:25	ちゃんと立ってるよねこれね。
1:17:28	だから、どんな要素地震使っても立つんだよ。
1:17:31	このままちょっとメーカーの回答が得られなくてたんで引いたけど、
1:17:38	これちゃんと説明をして欲しいなと思っています。本質ではないんだけどね。
1:17:45	ちょっと本質じゃないんだけど、やっぱりこれ立つんだよ、お宅のところ、
1:17:51	これはちょっとコメントだけしておきます。
1:17:57	ということではちょっといいですか。どうぞ。代表性いいですね、承知いたしました。はい。うん。
1:18:04	ということでねちょっとポンプ私からは大体以上なんだけど、そのやっぱ基本的なちょっとまとめるとね、基本的なところの、やっぱりその記載が抜けているというふうなことで、
1:18:15	そこをちゃんとしっかりもう 1 回資料整えていただいて、
1:18:20	もう 1 回ヒアリングさせていただきたいなというふうに思ってます。ちょっとあと他の審査官からのコメントをします。
1:18:30	規制庁ナガイですけども聞こえてますでしょうか。
1:18:34	前回の書き込みたいとか言われたんで。
1:18:36	はい、大丈夫です。
1:18:38	いくつかある使っていくっていうものが正しいな幾つもあるんだけど、まずなつか島さんの論文を引いているところかな、これ
1:18:51	ちゃんと確認したいんだけど、御社が書いている断層モデルの大きさっていうのはこれ御社の、
1:18:58	考えたいと思うんですよね。中島さんの考えで書いてあるんですよね。
1:19:02	電源開発のモリですが何ページ。
1:19:06	のでしょうか。41 ページ。
1:19:09	んです。
1:19:19	41 ページの資格は資格については加筆したものになっています。
1:19:26	だからこれは御社の考えを聞かを書いてください。中島さんの考え通りに書いてないですよという確認なんですけど、やっぱりそう老後資料通りです。

1:19:39	であればちょっと中島さん言ってることを解析全く違うこと書いてるんだけどそれはそれでいいのかな。
1:19:56	えっ。
1:19:57	はい、電源開発の森です。
1:20:02	中島の
1:20:05	指摘では余震域のさらに北側に低速度低速度域があるということが言えと言われて、
1:20:13	おりますので、それを踏まえてその低速度域まで
1:20:19	組青い四角を
1:20:22	こちらで加筆していると。
1:20:24	いうところで中島の知見等は
1:20:30	矛盾はしてないというふうに考えていますが、
1:20:34	うん、赤枠の記載も違うしね指摘もしてないですよ、避難きかせただけです。
1:20:40	この論文は指摘はしてないです。
1:20:43	そこはちゃんと論文読んでるかどうかはすぐわかるんですよ、こっちだって、
1:20:48	そこは女川の細部八条いたし
1:20:52	%議論を聞いてたのかどうか含めて担当わかるので、
1:20:56	ここは制定自分の考えで書いているのか中島さんの
1:21:01	論文の考える会というのかはっきりしてください。
1:21:07	電源開発オオイですね、ただいまの指摘をありがとうございました。
1:21:12	修正したいと思います。
1:21:16	先ほどサトウからもあった検討用地震の選定のところなんですけどね。
1:21:21	これ幾つかあるんですけどこれ。
1:21:24	今の片岡の式使っていると0.1秒以下は全然出てこないんですけど、0.1秒以下の周期は全く考えないという理解でよろしいですか。
1:21:39	はい電源発電モリレースでオートスペクトルとして評価できるのは、論点1の
1:21:46	以降しかないんですけども、それ以下の周期体については、臭気僚店部未了がですね、最大化速度と対応するというふうに考えまして、最大加速度の単価のほかの式でも確認はして、
1:22:02	焙焼関係は変わらないことは確認しております。
1:22:09	質問、私が聞いたことお答えになってないんですけど。
1:22:13	そうではなくてここは考えなくていいんですかということ聞いてるんですけど、それに立って考えているのか考えてないと答えて欲しいんですけど。
1:22:26	はい。天文開発のモリです。
1:22:29	周期0.1秒以下についても考える必要が

1:22:33	ありますので、今ご説明したような内容を取り込みたいと思います。
1:22:44	規制庁サトウですけども、ちょっとその質問の意図をちゃんととらえて欲しいんですけど。
1:22:50	これことオカれて1秒よりも長周期ということではしか評価してないんだけど、それよりその短周期のほうは、そもそも御社として評価しなくていいのかと。だから、0.1秒以下の低たんなくてもいいのかっていう、そういう質問なんですよ。
1:23:15	今答えられないっていうのであれば先ほど申し上げたように考え方をもう1回整理した上で考えなくてもいいですか。或いは考えるべきなんだけど、これこれこういう理由なので、
1:23:29	ですみたいなそういうことで回答いただきたいんですけど。
1:23:34	よろしいですか。
1:23:36	わかりましたと。
1:23:38	もう、もう一度整理。
1:23:41	お示したいと思います。
1:23:44	はい、規制庁の永井です。考えていただくだけにして最高という中でも新しいもの入れないでください。それだけは伝えておきます。
1:23:54	で検討用地震の考えの中でここで短周期レベルをいろいろ考えてるんですけども、なぜここで不確かさとして短周期レベルのトップのものを
1:24:05	検討用地震の地震動評価の基本ケースにしてないんですか。
1:24:10	なぜ最大のものを選ばないんですかね、検討用地震の地震動評価として、
1:24:17	ここで短周期を考えてここまで考えるんだったら検討地震として選定するのが一番大きいものだと思うんですけどもその辺りの考え方と同様に考えてるんですか。
1:24:32	すいませんとちょっと趣旨がよくわからなかったもの。
1:24:37	もう一度お願いしてもよろしいですか。
1:24:41	もうちょっとかみ砕いといたしますと59ページで一番上にあるのは、鎖線で引いた上限の地震ですね、これ不確かさケースのうちの短周期レベルの方だと思うんですけども。
1:24:56	これが検討用地震なんじゃないんですかね。
1:24:59	65名69、69ページ。
1:25:06	なぜ一番大きいを選ばないのかということでしたんですけど。
1:25:18	電源開発の森です。69ページのほうで選定はしております、
1:25:29	一番



1:25:31	敷地への影響が大きいと考えられるまま色の両親発地震面の上下の地震について、また周期側ではですね、検討用地震としては選定しております選定しております、
1:25:44	選定しております。
1:25:49	質問の意図がちゃんと伝わってないのかもしれないんですけど。
1:25:53	この辺比較するんだったらそもそも乗務員の地震のここで言う基本ケースって、検討用地震として選ぶ必要があるのか地震動評価をやる必要があるのかってところだと、これ見ると要らないんじゃないのって思っちゃうんだけど、その
1:26:08	御社の考え方はどうなんですかということです。
1:26:12	いろいろケースやればこの中の一番大きいだけこのあと地震動評価をやればいいんじゃないんでしょうかと。
1:26:19	普通の選び方としてはそうですねこのサイトも、
1:26:23	一番大きいを選んで評価してますよね。
1:26:26	まずそういうことをしないんですかということで、
1:26:34	電源開発の森です。選定の段階で、各ケースを設定して、69 ページのほうで選定しておりますので、選定の結果選ばれた例えば二重深発地震面の町名の地震については、この 69 ページに示しているものはあくまでタカオカ。
1:26:53	オカによる評価でありますので、地震、検討用地震として、例えば断層モデルによる評価をする場合は、
1:27:01	基本ケースから各不確かさケースまで
1:27:05	だんだん沸騰モデルを設定して評価。
1:27:10	するほうがよいと考えておりますので、前ケースについてケース想定して検討しているという。
1:27:18	考え方です。
1:27:20	すみませんちょっとあのですね、こちらが説明して欲しいような考え方を説明していただけないようなので、ちょっと考え方整理してこれは審査会で説明説明してください。
1:27:31	次に行かせていただいてよろしいですかね。
1:27:39	80 ページ。
1:27:41	補正技術のとこなんですけども。
1:27:45	これ本当にそのデータみとフラットでいいんですかって思うんですけど。
1:27:50	特に水性動か長周期側、
1:27:54	これ結構大きくなってますけどこれは考えなくてもいいんですか。
1:27:59	お考えを聞かせください。

1:28:04	電源の開発のモリです。ここの地震の残渣で見ますと、
1:28:11	ここの地震の特徴が現れてしまうので、ここでは、
1:28:16	敷地に対する平均的な、
1:28:20	段差として平均値に対して補正係数を設定しておりまして、それで見ると、と周期側でも、
1:28:28	サトウ修理側についても、
1:28:31	平均値と対応した補正係数になっているというふうに考えています。
1:28:40	ありました。あと1点、本資料ではあるんですけども想定とか長期のほうの要素地震のはけ
1:28:51	A106 ページですね、これ見ると、
1:28:54	本当にこれ性能十分なんですかね冊シグナルつつとらえてるんですかって言うのは気になってしまうんですけど、多分それをさらに反映しているのが、
1:29:05	0.08 秒ぐらいですかねそれぐらいから短周期ってほぼフラットですよ。
1:29:12	そういうことにこれ本当に評価しなきゃいけないような例。1秒より短周期でシグナルがそもそもわかるんですかね。
1:29:30	電源開発ヤスダです。確かにこの記録を要素地震をですね、
1:29:36	最大加速度を見ていただいても小さい。
1:29:40	小さくなっております。申し上げればちょっと御SN比については溜めて確認をしてですね、御説明できるようにしたいと思っております。
1:29:50	はい、規制庁の永井です。ちょっとデータリクエストなっちゃうんですけどこれ上野は決定これこれ長い時間たっていないですか。とりわけ引き取ってですかね。
1:30:02	電源開発がそのリスク量のトリガー形式でご審議取っております、トリガーパパ
1:30:11	10 システムのトリガーですね、これ開けを切り出し保存しておりますので、またね上からこれ以上のちょっとデータをこのとき時なかったというものになります。
1:30:22	はい、わかりました。これナガイのがあればもうちょっとノイズ部分までね、会計いただければわかるかなと思ったんですけど、不可能だということで確認をさせていただきました。
1:30:34	で、多分それもあるんでしょうけども、
1:30:38	統計的との比較補足資料のほうでやっていただけてますけど、やっぱこれ見ても、
1:30:44	もう統計的だとある程度揺れているのに入れているという形でいいのかわからない 17 ページとか見ると、

1:30:52	短周期側である程度触れ触れてるんだけど、経験的だとあまり触れてないなという印象を正直受けます。
1:31:01	補足のほうで、
1:31:04	言ってこれあの東通の資料見られているのかどうか。
1:31:08	これも疑問を持ちちゃうんですけども。
1:31:11	10 ページで、
1:31:14	アドオンある性も入れてくれと東通リクエスト勝手にそれが切ってます知らないですか。
1:31:25	2 月のモリです。
1:31:30	それは狭承知しておりませんでした。
1:31:34	すいません。時はですね、今申し上げますとBB断面の右側の図ですね。
1:31:40	このために相当するところの海岸線の位置を入れてください。
1:31:44	それと、応じていただくとデータ、右側のデータとの関係というのがある程度見やすくなるので。
1:31:52	それを入れていただきたいということ可能であればですねその黒線の延長部がわかる。
1:31:58	既往延長部のわかるようにしてもらおうと、よりベターです。
1:32:04	はい電源開発モリです。ただいま指摘承知いたしました。期待したいと思います。はい、江藤ナガイからは以上です。
1:32:17	規制庁佐藤です。ミツイさん、ありますか、コメント。
1:32:21	確認。
1:32:23	ミツイさん聞こえてますか。
1:32:26	排気プアー思いますか。大丈夫ですか。聞こえます。
1:32:30	すいません案を、いや僕もサトウさんなんかと
1:32:35	お話と同じなんですけど、やっぱりオートスペクトル法で用い件数の方をオカの位置付けが、
1:32:43	ちょっと不明になって、
1:32:45	野田デュアルディスその地震観測記録に基づいてさ教えをしているので、
1:32:52	まだその短周期レベルとかの影響とか、そこでも反映はされているので、
1:32:56	タカオカをわざわざその使う必要がないんじゃないかなっていうふうに思いますということでこれも繰り返しになりますけども、
1:33:04	ちょっとあの片岡ほかを使ったその位置付けについてですね、ちゃんと整理をして欲しいと。
1:33:09	というのが私のリクエストです。私からは以上です。
1:33:16	はい。それでは、うちのほうから確認は以上ですけども。

1:33:23	電源開発の方から今日の
1:33:25	コメントの整理をお願いしたいんですけど、よろしいですか。
1:33:34	はい、電源開発の岡です。
1:33:36	ちょっと画面の外から
1:33:38	失礼します。
1:33:41	画面はどの画面ご覧いただけますでしょうか。はい規制庁佐藤です。見えてますけどもちょっとちっちゃいので、御社のほうで読み上げていただいてよろしいですか。
1:33:53	はい、承知しました。
1:33:55	とNo.1、
1:33:57	敷地周辺の地震の発生状況の記載の追記について。
1:34:04	No.2、105 ページ、想定十勝大きいスラブ内地震の検討における計算パラメータ計算の経過の
1:34:13	明治について、
1:34:15	No.3、検討用地震の選定方法変更後括弧片岡ほかへの片岡ほかの方法への変更、
1:34:24	した。
1:34:25	っていう根拠の明示について。
1:34:27	No.4 想定十勝沖スラブ内地震の敷地への影響における
1:34:33	近隣サイトとの傾向の違いについて、
1:34:37	No.5 速度応答における水平二成分の構成について、
1:34:43	No.6、82 ページ、100 ページ等価震源距離の記載の追記について。
1:34:50	No.780 ページ補正係数の算定における観測記録する地震の短タイプによる分類について、
1:35:00	No.8、106 ページ、0.5 秒程度の周期体の速度成分が卓越する理由について、
1:35:09	No.9 本 11 ページ、中島の知見の引用における表現について、
1:35:16	ナンバー10、
1:35:17	上 0.1 秒以下の周期体の敷地への評価、影響の評価について、
1:35:24	No.11、69 ページ。
1:35:28	検討用地震の基本ケースにおける短周期レベルの取り扱いについて、
1:35:37	No.12、80 ページ長周期側の各地震の残渣等補正係数との整合について。
1:35:45	No.13、106 ページ。
1:35:48	要素地震の
1:35:50	SN比の取り扱いについて、

1:35:53	No.14。
1:35:55	補足の1ページ、断層面の図への
1:36:00	海岸3-1の明記について、
1:36:03	以上です。
1:36:08	規制庁サトウですけども、申請書の誤りの件を記載あるんですかね。
1:36:18	はい、江藤で2ヶ月のオカですけど、No.2にですね、105ページ、想定とか長期スラブ内地震の検討における計算パラメータ計算も、
1:36:29	結果を明示について触れておりますけれども、
1:36:33	ここですよ。はい規制庁佐藤です。了解しました。ちなみにですが、
1:36:37	浦河大きいのスラブ内地震は、もう今回出てこないかなと思ったけど御社の資料を見ると補足説明資料にパラメータまで後手にのっけているので、
1:36:49	これどうされますこの扱いは、
1:36:55	電源開発の湯浅です。先ほどのサトウさんの方から変更申請時簿記のお話もありましたので、補足でありますけれども、ここでパラメータ表を載せてですね、この設定根拠っていうところにも、
1:37:13	具体的にどういうふうに突破したのかっていう計算の過程を載せておりますので、
1:37:19	これでもってですね先ほど言われましたビフォーアフターじゃないですけどもこれアフターだけになるんですが、
1:37:27	県さん。
1:37:29	計算に用いた数値が正しいということをOdご確認いただきたいというふうに思っております。
1:37:36	規制庁サトウですけどもそうすると想定落下を昨日スラブ内地震についてもちゃんとお示しいただけるというそういう理解でよろしいですか。
1:37:49	いや、それからです。どうぞ。別途補正申請のときには、先ほどありましたけれども Mori川里 Sasatani のモデルを使ってますんで今回あの得るレシピが出たことに伴いまして、基本モデルの賃金も出るわけPDFでつくり替えて、
1:38:06	おります。したがって今申請書で使いました Mori化させたりのモデルは、本資料ではまだ定義を来ませんので、そういった意味で見ますと、備考はちょっとこの資料では出せないんですが、
1:38:22	アフターということで最新の一番我々が最新で考えているパラメータの断層モデルの結果については、今日お示したような形でですね、もうせたいというふうに思っております。
1:38:36	了解しました。先日の審査会合でプレート間地震の審査会合で想定三陸沖北部のやつ、地震のですね断層パラメータこれもその後来③なのだけれども、こ

	れもう表には出てくることがないので、あえて審査会合では言いませんでしたけど、
1:38:55	それでそれと比較してですね今回の想定浦河大きな話を今確認をさせていただいたというふうなことでございます。
1:39:06	私からは以上ですけども。
1:39:11	そうすると規制庁サトウですが、そうすると、今申し上げたコメントについて、もう1回資料を整えてもう一度ヒアリングというふうな形にさせていただきたいと思っておりますけども、
1:39:24	よろしいですか。
1:39:27	電源開発の坂本でございます。
1:39:30	今日ご指摘いただいた件のベーシックのところは抜けているとか、そういった重要な部分から始まっているいろいろ御指摘いただきました。
1:39:37	冒頭で私が御説の変更点の御説明をしたようなことを本編の中にしっかり記載することで、今日ご指摘いただいた内容にある程度配当というか、会合で議論できるような形にはできると思います。
1:39:53	思いましてその急いでそういったことで整理したいと思っております。
1:39:58	あとちょっと今のその誤りの件でもう一度ちょっと確認したいんですけども、
1:40:04	別途それなりのその①とか、
1:40:07	Q値の記載の誤りの件につきましては先ほど安田も申しましたけれども、計算自体は正しい値を使って計算していただくのは、会合でも御説明済みだと思います。従いまして
1:40:23	しかるべきその領域のQ値を正しく論文のQ値を持ってきてるかどうかというのを図示するような形。
1:40:33	で、
1:40:34	そのお示しすることぐらいしかできないと思うんですけども。
1:40:38	きっとことでよろしいですかね。規制庁サトウですけどもそれでも結構ですよ。ちゃんとその正しい値でもってやっていますっていうことがわかるように明示的にわかるようにしていただければ、それはどんな形であってもそれはそれは御社にお任せします。
1:40:54	初めて仕事についてははい。
1:40:57	あと先行サイトとの絡みで、敷地下方のスラブぐらい。
1:41:02	に関しての御指摘ございましたけども、その辺はちょっと会社としての考え等を記載できる範囲で、
1:41:11	うん追記して理解を示ししようと思っておりますけども、そういった形でよろしいですよ。

1:41:17	はい規制庁佐藤ですけど、考え方のおっしゃる今おっしゃったように審査会合で議論できるような考え方をまずはちゃんと書いていただきたいとそうでないとねお互いにその考え方をちゃんと理解しないうちに審査会合で議論しても、すれ違いばかり生じ、
1:41:32	時間の無駄になっちゃうんで、考え方をちゃんと明記して、資料出していただきたいということでございます。以上です。
1:41:40	電源開発サカモトです。ご指摘許しよく理解できましたので、それだけ早くまたお示ししたいと思います。よろしく申し上げます。
1:41:58	すみません、もう一度ですね、さっきの指摘事項のコメントをリストをちょっとお出しいただくことができますか、ちょっとスクリーンショットとりますんで。
1:42:11	全体見えるようにちょっと細かくなってもいいんですすみません、少しお時間をください。
1:42:25	すいません規制庁サトウですけども、今日のコメントちょっと多いので、後でサンノミヤさんからメールを送っていただくことができますかねこれ。
1:42:36	電源開発の岡です。後程ワードファイルをお送りします。
1:42:41	。
1:42:42	規制庁佐藤です。お手数ですがよろしく申し上げます。
1:42:48	規制庁コヤマダです。
1:42:50	ほかにこちらからは特段、ほかにありませんが、電源開発の方から何かありますか。
1:43:00	電源開発のタカオカでございます。こちらからはございませんので、以上で、
1:43:08	よろしいです。
1:43:10	規制庁コヤマダです。それでこれで本日のヒアリングを終了したいと思います。どうもお疲れ様でした。
1:43:17	はい、お疲れ様でした。